

ジェネリック2

国は医療費削減の一つの方法としてジェネリック薬品(後発)を使ってほしいと言っています。後発薬は開発メーカーの薬(先発)の特許が切れた薬品を、他のメーカーが作った薬です。

後発薬は欧米で60%を超えるくらい使われています。日本は目標を30%にして推進しています。日本で後発がなかなか育たなかった理由に、後発は先発と本当に同じかと疑問をもたれていることです。

後発、先発いずれも主成分(効き目の成分)は同ですがそれを飲みやすい状態に処理する方法や添加物が違います。当然、造る工場も管理者も違うのでsから当然かもしれません。

その違いのたとえに、カツレツとポークソテーにたとえられます。同じ豚肉には違いありませんが、調理法に違いがあり、カツレツ(後発)には卵やパン粉が使われている。そのため先発(ポークソテー)になかったアレルギーがあるかもしれないという疑問、それに製造法によって保存状態による変化も心配されています。しかし、その不安も問題なく推移しているようです。

経済的には、後発薬を採用すると薬の種類によりますが一部負担金が半分以下になるばあいもあり、年間を通じれば相当の負担軽減になります。そこで、今回の法改正では、後発薬に変えてもいいという医師の処方に基づき、薬剤師が患者さんとよく相談しながら後発薬品に変えることが可能になりました。

一気に全部を変えることも可能ですが、慎重に一部の薬を体調を見ながら慎重に変えていくことも行われています。順調に後発薬に移行でき、経済的にも有利ならば変えない理由も少なくなります。後発薬の体調への影響や経済性は、あなたのかかりつけ薬局の薬剤師にご相談ください。